

# 静岡県 御前崎市



## 佐倉地区 学び歩きマップ



指定文化財HP



所在地地図



学び歩きマップHP

### 佐倉の由来

1889年(明治22年)、町村制施行に伴い佐倉村、宮内村が合併し佐倉村となり、宮内村はその大字となった。1955年(昭和30年)、五か町村合併により佐倉地区となって現在に至っている。

佐倉の名については「佐倉村誌」に「佐倉ハ皇國阿闍梨上人ノ遺跡タル桜ヶ池ヲ以テ、古来ヨリ其ノ名四方ニ知ラル。故ニ旧村名佐倉ノ稱ヲ用ス」と記されている。

宮内は、宮内神社の社記によれば、勧請は大正年間(701年～704年)と伝えられ、当時少数が居住したことがみられる。宮内には弥生時代の遺跡もあり出土品もみられることから、そのころから居住があった可能性も考えられる。

### お問い合わせ

■御前崎市役所 社会教育課

御前崎市池新田 5585  
TEL.0537-29-8735

■佐倉地区センター

御前崎市佐倉 3617-1  
TEL.0537-86-2304

2024年3月現在 第3版

## 1 洗井薬師瑠璃光如来堂(あらいやくしるりこうによらいどう)

MAP D-4



「お薬さま」とも呼ばれる薬師堂は、昔は現在の地より30mくらい北東にあり、3つのお堂に堂守もいたといわれる。安政の大地震(1855年)によりお堂は倒壊し、現在の場所に再建された。主に病氣平癒の願掛けする人が多くみられたようだが、航海の安全祈願もしたようである。

堂前に6体の碑がある。西国三十三カ所巡礼の出発前に無事を祈願し、無事に行ってきた報告とお礼を兼ねて祀られたと思われる。

## 2 八人衆の墓

MAP D-4



1803年(享和3年)1月、沖を航行していた紀州の船・大吉丸が大風により難破した。船乗り3人が助かり8人は溺れて亡くなった。助かった3人は土地の人に懇願し、亡くなった8人は土地の人によって薬師堂裏に手厚く葬られた。伝承によると船乗りたちは荒波に流されて離ればなれにならぬように数珠つなぎに体を網で縛っていたという。

## 3 おべんヶ淵と箴川(おべんがふちとおさがわ)

MAP E-4



昔、箴川の下流(国道150号線箴川橋北側)に、青く澄んだ薄気味悪い淵があった。ここでは、「おべん」という娘が、箴(機織りの器具)に化けた河童に川へ引きずり込まれたという話があり、それからこの川を「箴川」とい、この淵を「おべんヶ淵」と呼んでいるという。現在は改修により石碑だけが建っている。市内で河童伝説の残る場所でもある。

## 4 線香地蔵(せんこうじぞう)

MAP E-3



1817年(文化14年)佐倉村の清水源九郎ほか信徒数名が村内安全祈願のために四国巡礼をした。その時、阿波の国・立江寺の地蔵大士の像を写し、この地にお地藏様を建立した。名前の由来は定かではない。広く靈験があり、特に眼病の人が祈願すると平癒する者が多く、祭日には遠近より信徒が集まったという。

## ■軽便鉄道 駿遠線駅舎跡(けいべんてつどう すんえんえきしゃあと)

5 玄保駅 MAP D-3 9 遠州佐倉駅 MAP C-3 12 桜ヶ池駅 MAP B-3



昭和23年に開業された駿遠線は「軽便」と呼ばれ、藤枝市から御前崎市を経由して袋井市を結ぶ全長64.6kmという軽便鉄道としては日本一の営業距離であった。自社工場で製造されたディーゼル機関車は鉄道マニアから「蒙古の戦車」と呼ばれていた。佐倉地区には3つの駅があり、戦後の農産物や海産物の買い出し客でにぎわった。昭和45年7月31日に駿遠線の幕は降ろされた。

## 6 弁天池(弁財天)

MAP C-2



弁天池は古文書に「麗水湧き出ること滝の流るる如し。よって御田地用水ともなしてんとて、その辺に堤を築き一つの池をなす。今、御供の池というなり。」と記されている。1665年(寛文5年)、この弁天池(御供の池)の中央に山本庄五郎の弟が社を造営し、弁財天の分霊を移し、祀るようになったと言われている。御神体は小さく、木で作られており、福德財宝の守護神である。

## 7 旧佐倉小学校跡

MAP C-3



佐倉小学校は1873年(明治6年)、比木・佐倉・宮内の三か村を一学区として官長寺(佐倉566)に開校した。明治25年に雨垂に校舎(後の村役場)が新築されて佐倉の児童が通うようになり、明治43年にこの地(現 さくらこども園)に新築された。昭和22年、佐倉村立小学校・中学校が設立され、昭和30年の町村合併で浜岡町立佐倉小学校、東中学校となったが、中学校は3年後に浜岡中学校に統合された。1974年(昭和49年)3月31日、比木小学校と統合し、浜岡東小学校となり101年の歴史を閉じた。

## 8 佐倉村役場の跡

MAP C-3



1910年(明治43年)、この地にあった小学校が移築され、その後を佐倉村役場とした。昭和30年、町村合併により村役場は廃止され、公民館になったが、1973年(昭和48年)、公民館も別の場所に新築された。役場跡の前にはお福荷さんがある。役場があったころ、この辺は佐倉の文化経済の中心としてにぎわった。

## 10 池宮神社(いけみやじんじや)

MAP B-2



社記によれば584年(敏達天皇13年)に建立されたと伝えられている。祭神は瀬織津姫。武田徳川の戦火によって社殿・古文書宝物などが焼失し、宝暦年間(1751～1763年)に再建されたという。社殿は本殿、幣殿、拝殿から成り、鬼斗や臺股などに江戸職風の工法がみられる。

拝殿正面には第15代将軍・徳川慶喜公が揮毫・奉納されたと伝えられる「池宮神社扁額」が飾られている。また、本居宣長を模写した絵に宣長本人が「賛(絵画に書かれた詩や歌、文)」を記した掛軸も所蔵されている。境内には、八幡神社や津島神社など6社が祀られている。

## 11 桜ヶ池とお櫃納め(さくらがいけとおひつおさめ)

MAP B-2



桜ヶ池は、6000年ほど前にできた広さ2万㎡の堰止湖。流入している河川がないのに常に豊かな水をたたえており、三方を囲む丘陵のうっそうと茂った原生林の緑を水面に映して、神秘的な雰囲気が漂っている。名僧・皇阿阿闍梨が龍神に姿を変えてこの池に入定し、その後、弟子の法然上人が赤飯を供え法要を営んだことが起源と伝えられる「お櫃納め」の神事が、毎年、彼岸の中日に行われる。全国的にも珍しい行事である。

## 13 浮洲堂(うきすどう)

MAP B-3



お堂の中には十一面観世音菩薩(銅像)が本尊として祀られている。古文書に「往昔大海浦ノ時、此地ノミ浮キ揚リテ残リシトイフ。今ニ一堂ヲ立テ、観音ヲ祭り浮洲堂トイフ。」と記されている。昭和17年に龍泉寺の所属となり、佐倉郷地内より龍泉寺境内に移転された。

## 14 長兵衛地蔵(ちょうべいじぞう)

MAP B-2



三願叶地蔵尊(三願地蔵)が本尊として祀られ、名前のとおり三つの願いまでかなえてくれるが、特に難病平癒や海難除けなどに御利益があるといわれている。この社やお地藏さまは当地の清水家の所有である。建物は神社建築の最も古い建築様式の大社造りで、間2.6m、奥行4.6m、高さ5.4mである。

## 15 徳川・武田方小競り合いの跡(首切り坂)

MAP B-2



1578年(天正6年)横須賀城徳川方の渥美源五郎勝吉、福岡太郎八らが、高天神城武田方の兵糧集積地である相良城の様子を探っていた。この付近で、横須賀城を探って帰る武田方の兵と争いとなり、武田方の馬上2人と徒歩兵4人を切り殺した。武田兵の残骸は土地のものによって埋葬された。そのため、地元ではこの場所を昔から首切り坂と呼んでいる。

## 16 宮内神社(みやうちじんじや)

MAP C-2



大宝年間(701年～704年)、宮内村誕生(産土神(その土地を守る神)として京都八坂神社から分霊し、現在の弁天池南角の地に創建され、その後、1305年(嘉元2年)に現在地に移されたといわれている。1884年(明治17年)には「宮内神社」と改称したが、宮内天王社とも呼ばれている。祭神は素戔鳴尊で、相殿の榊田姫命はその妃で夫婦神として勧進されている。もう一体の相殿の大国主命は国づくりと農業の神で五穀豊穡を願って祀られている。

## 17 薩田ヶ谷横穴群(さつたがやよこあなぐん)

MAP C-1



この横穴群は、丘陵上部の南斜面に位置し、1964・65年(昭和39・40年)に発掘調査が実施された。6世紀中頃から8世紀前半(古墳時代中頃から奈良時代前期)の墓で、6基で構成されている。箴川流域最大の横穴群であり、1978年(昭和53年)に浜岡町(現御前崎市)の指定史跡に指定された。副葬品として大刀、鉄族、陶器の須恵器、装飾品として勾玉などの玉類、金銅製の直刀、耳環などがある。



# 静岡県御前崎市 佐倉地区歩き学びマップ



— 桜ヶ池コース 約3km 徒歩 約70分  
— 宮内コース 約3km 徒歩 約70分  
— 佐倉コース 約4.5km 徒歩 約100分  
— 佐倉南コース 約4.5km 徒歩 約100分  
 コースの一部に歩道が無い道路、横断歩道が無い箇所があります。気をつけて通行してください。



0 1 km  
1:13,500